

太平洋戦争の終戦から72回目の夏を迎えました。月日の経過とともに、戦争の悲惨さと平和の大切さについて体験をもとに語り継いできた方々も今では少なくなってきました。しかし、戦争という悲惨な体験とともにその戦争への思いを風化させるわけにはいきません。そして、私たちには、次の時代を担う子どもたちに平和の大切さを伝えていく義務があります。

そこで、平和教育研究委員会では、平成7年度から市内の小学校に残る2体の「青い目の人形」を中心とした「子どものための平和展」を継続して行ってきました。日米親善の象徴として子どもたちに歓迎された「青い目の人形」のほとんどが戦争をきっかけに焼かれたり、廃棄されたりしてしまいました。この人形のたどった運命を紹介することは、子どもたちに戦争の悲惨さや、平和の大切さを自分のこととして捉えることにつながると考え平和展の中心に位置付けてきました。

本年度も昨年度に引き続き、会場を豊橋市中央図書館とし、図書館主催の平和展とも連携を図っての開催となりました。昨年度から、壁面一面に、市内全小中学校から平和へのメッセージを集めたタペストリーの展示をしています。本年度は、宇宙を舞台に「世界平和」をイメージした作品です。そこへ平和展に参加していただいた方のメッセージも書き加えていきます。

「子どものための平和展」が、子どもたち一人一人が平和について考えるきっかけとなり、「今の、そして未来の幸せを守りたい」という思いをもってくれたらと願っています。そして、平和展がそのためのささやかな灯火であり続けたいと思います。

結びに、この会の開催にあたり快く会場を提供して下さった豊橋市中央図書館をはじめ、貴重な資料を貸与して下さった皆様に心よりお礼を申し上げます。

平成29年 夏 平和教育研究委員会 委員長 田澤 順子



わたしクリスティーナが、みなさんをご案内します。

目 次

「青い目の人形」って? 1ページ

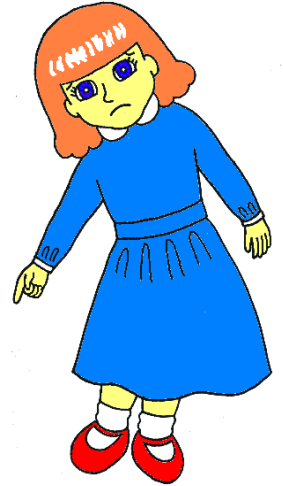
戦争中のくらしとは? 6ページ

豊橋の空襲 12ページ

「子どものための平和展」関連年表 16ページ

愛知県にある友情人形「青い目の人形」 18ページ

あおめ にんぎょう 「青い目の人形」って？



「青い目の人形」ってどんな人形か知っていますか？
こんなかわいい人形が、日本とアメリカの戦争のとき
大変な運命をたどりました。それは・・・。

ゆうじょう にんぎょうけいかく 友情の人形計画

明治元年から、アメリカへ移り住む日本人が次第に増えていき、とりわけカリフォルニア州は移り住んだ日本人の数が多く、日本に對する反感の気持ちが強まり反日運動が起こりました。

日本で20年あまり生活し、母国へ帰りカリフォルニアの土をふんだシドニー・ギューリック博士は、この州でさかんであった反日運動に直面し、こうした状況から日本とアメリカの関係が悪くなることをおそれ、人形を平和の使いとして日本に贈

ることを思いついたのです。平和と友情の精神を次代に向けて育てていくためには、子どもたちからの国際交流が必要と考え、「友情の人形計画」をアメリカの国民に呼びかけたのです。アメリカ全土で260万人の学校関係者や教会の人々を中心とするボランティアが1年がかりでこの計画に取り組みました。バザーで資金を集め人形を買い入れたり、人形の着がえを作ったりしました。日本側は、渋沢栄一に協力を依頼し、文部省(現在の文部科学省)に働きかけてもらうこととしました。

こうして、12,739体の「青い目の人形」がアメリカの少女たちの友好の気持ちとともに贈られてきたのです。

※ 人形の背丈は40センチ前後で、腹部に発声装置を内蔵した【ママー人形】で、3社の人形メーカーの製品が主流でした。衣装なしの裸人形で1体3ドルでした。

【反日運動がさかんになったおもな理由】

- 低い給料でもよく働く日本人への反感
- 白人社会にある人種的な差別
- アメリカ市民社会にとけこまない日本人への批判

かんげい 歓迎される「青い目の人形」

昭和2(1927)年の早春、アメリカから日本へたくさん

の「友情の人形」が贈られました。この「青い目の人形」は日本各地の小学校や幼稚園に一体ずつ贈られました。アメリカの子どもたちからの平和のメッセージをたずさえ、その子どもたちが作った衣装を身につけた人形たちは、大歓迎されました。日本の子どもたちは、はじめて対面した「人形」に大喜びでした。やがて日本中の少女た



コネタ (西郷小)

ちによって募金（ぼくぎん）がはじまり、そのお返し（かえ）として美しい「日本人形（にほんにんぎょう）」が海（うみ）を渡（わた）ってアメリカへ贈（おく）られました。日本（にほん）とアメリカの「平和（へいわ）の使節（しせつ）」が行き来（ゆきま）したのです。



エセル・ティーン（細谷小）

豊橋（とよはし）では、わたしエセル・ティーンとコネタの2（ふた）体が生きのびたの。日本（にほん）全国（ぜんこく）では、236（ふたひゃくさんじゅうろく）体もわたしのよう（よう）な人形（にんぎょう）があるのよ。

人形（にんぎょう）だけど、人間（にんげん）と同じ（おな）じように贈（おく）られたんだね。



エセル・ティーンのパスポートと船（ふね）の切符（きっぷ）

青（あお）い自（め）の人形（にんぎょう）とともに送（おく）られてきた手紙（てがみ）（細谷小（ほそやしょう）学校（がっこう）保存（ぼぜん））

《日本（にほん）の小さなお友（とも）だちへ》

エセル・ティーンは、愛（あい）と少女（しょうじょ）たちのごあいさつを、あなたたちとあなたたちの人形（にんぎょう）のもとへお届け（おど）けます。あなたたちの習慣（しゅうかん）、とくに「ひなまつり」を知（し）って、なんとすばらしいことかと感（あ）いしました。毎年（まいとし）、彼女（かのじょ）がみなさんのお祭（まつ）りに参加（さんか）できるように希（き）望（ぼう）しております。

あなたと遊（あそ）ぶために、エセル・ティーンは、アメリカの少女（しょうじょ）たちのだれもが望（のぞ）んでいる旅（たび）をしていくのです。旅（たび）のおわりには、彼女（かのじょ）はあなたたかい歓迎（かんげい）をうけるだろうと思（おも）います。

あとあとまでずっと、あなたが彼女（かのじょ）のママ（ママ）になって下（くだ）さることを信（しん）じています。

心（こころ）をこめて、アメリカの友人（ゆうじん）エセル・ルトレッド（ルトレッド）から



答礼（とうらい）人形（にんぎょう）（細谷小（ほそやしょう））

「答礼（とうらい）人形（にんぎょう）」アメリカへ

「青（あお）い自（め）の人形（にんぎょう）」たちのメッセー（メッセー）ジには、「返（へん）礼（らい）の心（しん）配（ぱい）はいりません」と書（か）いてありましたが、お礼（らい）の人形（にんぎょう）を送（おく）るのが礼儀（れいぎ）と、日本（にほん）からは「答礼（とうらい）人形（にんぎょう）」を贈（おく）ることになりました。

「青（あお）い自（め）の人形（にんぎょう）」がひなまつり（ひなまつり）を自（め）ざして送（おく）られてきたので、日本（にほん）からはクリスマス（クリスマス）に間（ま）に合（あ）わせようと、短（みじ）かい期（き）間（かん）で制（せい）作（さく）することになりました。そのため、多（おほ）くの人形（にんぎょう）を作（つく）るのは無（む）理（り）なので58（ごじゅうはち）体（たい）の人形（にんぎょう）を送（おく）り、学（が）校（がっこう）ごと（ごと）ではなく答（た）礼（らい）州（しゅう）ごと（ごと）に分（わ）けて贈（おく）ることになりました。

東京（とうきょう）や京都（きょうと）の一流（いっしゅう）の人形師（にんぎょうし）に依（い）頼（らい）し、最（さい）高（こう）級（きゅう）の人形（にんぎょう）を作（つく）ることになり、当（とう）時（じ）の金（きん）額（がく）で一（いっ）体（たい）当（た）たり350（さんびゃくごじゅう）円（えん）（現在（げんざい）な

らおよそ180万円)というあまりにも高額の人形でした。人形を受けとった学校の女の子たちを中心に250万人ほどの人々から一銭(1円の100分の1)ずつの寄付金が集まりました。人々の生活は苦しかったですが、ものを贈られたのだから返礼は当然の礼儀と、保護者からは反対の声は聞かれなかったそうです。

任上がった人形たちは、道府県別にお別れ会を行い、子どもたちの手紙を持って昭和2(1927)年11月10日横浜港から旅立っていきました。

日本人形の美しさ、かわいらしさはアメリカの人々を感心させ、各州で熱烈な歓迎を受けました。松原駐米日本大使は「私よりもっとりっぱに大使の役目をはたしてくれるでしょう」と述べ、ニューヨーク市長のウォーカーは「日本児童がこのためにささげたお金は日米の親交をきずき上げる」と述べています。このように日米両国の親善のための人形交換は、多くの人々の気持ちによって実現したのです。

たたきこわせ「青い目の人形」



昭和18年の毎日新聞記事

しまったのです。15年ほど前には、盛大な歓迎会を開いてむかえた「青い目の人形」を焼いたり、こわしたりしてしまったのです。戦争が始まったために、同じ人形に対する子どもたちの思いまでもが大きく変わってしまったのです。

その一方で、「人形につみはな

昭和16(1941)年12月8日に、日本とアメリカは戦争をはじめました。太平洋戦争です。戦争中の日本では、英語は敵国の言葉として禁止されました。子どもたちに親しまれた「青い目の人形」や「赤い靴」などの童謡も歌ってはならないとされました。

このような中で、昭和18(1943)年2月の新聞に「たたきこわせ『青い目の人形』」(毎日新聞)と記事がのりました。「今にして思えばおそろしい仮面の親善使」だったとし、文部省役人の「こわすなり、焼くなり、海へするなりすることに賛成」との話が発表されました。すでにこの記事より早く、人形の処分を行っていた学校もあり、各地で「青い目の人形」がこわされていきました。子どもたちにこわさせたり、石を投げたり、竹やりの的にされて

捨てる	89名
焼いてしまえ	133名
送り返せ	44名
毎日いじめろ	31名
海へ捨てる	33名
白旗を肩にかけて飾っておく	5名
アメリカのスパイと思っ て気をつけよ	1名

(毎日新聞より)

い」、「友情の人形をこわすのはしのびない」とひそかに人形を守る人たちもいました。西郷小学校のコネタも細谷小学校のエセル・ディーンもそのような人々に守られて処分を受けずにすんだのです。人形をかくすことは大変な勇気のいることでした。

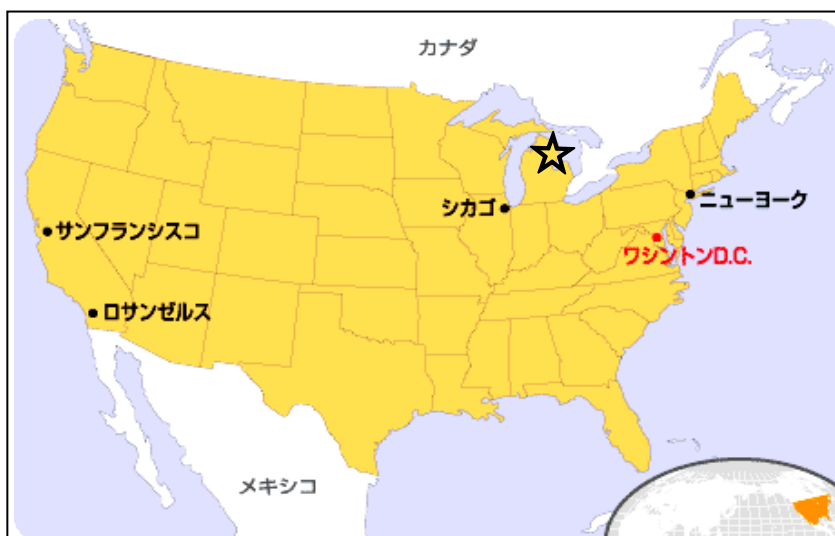
コネタの里帰り

その後、1970年代になって、NHKで「人形使節メリー」が放映され、各地から人形が残っているという話が寄せられ「誓い自の人形」が話題にあがるようになりました。昭和53（1978）年には、「誓い自の人形50周年記念展示会」が開かれ、29体の人形が公開され関心が集まりました。昭和58（1983）年には、「誓い自をしたお人形は」がテレビでドラマ化されたり、「誓い自の人形展」では109体の人形が展示・公開されました。こうして、戦争の中で大切に守られ生きのびた人形たちが、やっと自の自をみることができるようになったのです。

平成7（1995）年には、新しい誓い自の人形『クリスティーナ』が西郷小学校へやってくることになりました。この人形をプレゼントしたのが誓い自の人形を日本に贈ることを考えたシドニー・キューリック博士の孫でした。「コネタ」の妹として西郷小学校へ送ったそうです。『子どものための平和展』のイメージキャラクターがクリスティーナであることは、もう気づいていますよね。



クリスティーナ（西郷小）



アメリカの地図 ☆… ワパコネタ市

故郷であるアメリカへ里帰りさせることになりました。コネタが日本にやってきて70年ぶりのことでした。平成8（1996）年に、「コネタ」がアメリカへ里帰りすることが実現したのです。コネタの里帰り

その後、このことがきっかけとなって、地元の人たちの人形への関心がいっきに高まり、「コネタを里帰りさせる西郷の会」がつくられ、実現にむけて運動がすすめられました。コネタにも、当時のパスポートが残されており、アメリカのオハイオ州ワパコネタ市の教会から贈られたことがわかりました。そこで、戦後の50周年を機に、コネタを

は、地元アメリカの新聞でも、2日間にわたって一面トップで伝えられたそうです。コネタを日本へつれて帰る予定でしたが、「どうしても置いていってほしい」というノースリッジ小学校（オハイオ州）の希望で、コネタはアメリカにしばらく滞在したほどの歓迎ぶりでした。この里帰りに同行した西郷小の児童代表も、「コネタの妹になるエレノアをいただいた。コネタと同じように大事にしてノースリッジ小学校との友情を深めたい」という感想を話しています。この里帰りをきっかけに西郷小とノースリッジ小は、姉妹校の関係を結びました。戦争のころは、「たたきこわせ」とされた青い目の人形が、今では、日本とアメリカの国際交流を深めるものとなっているのです。

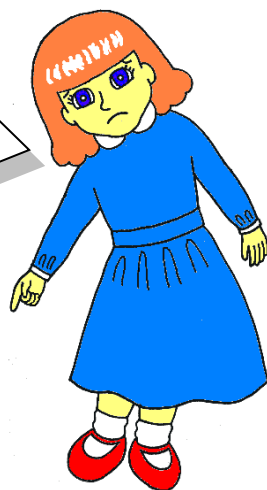


平成7年の中日新聞記事

みなさん、「青い目の人形」が、どのような歴史をたどってきたかわかりましたか？

歓迎された人形が、戦争の中で、非常につらい目にあい、そして、現在では『友情の人形』として国際交流のかけ橋になっているんですね。今、みなさんの暮らす日本はいへん平和な世の中ですね。でも、世界をみると、無差別テロの問題、北朝鮮のミサイルの恐怖など、決して平和な時代とはいえません。

この「青い目の人形」の話 をきっかけに、みなさんも戦争について調べてみたり、家族で話し合ったりしてじっくりと考えてみてはどうでしょうか。



せんそうちゆう

戦争中のくらしとは？

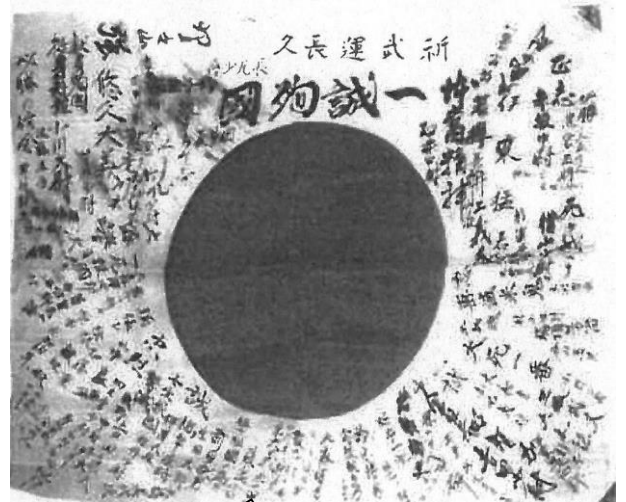
しのびよる軍国主義のために・・・

昭和12（1937）年、日本と中国の間で戦争（日中戦争）が始まり、昭和16（1941）年には太平洋戦争が起こりました。戦争がはげしくなると、「赤紙」とよばれる召集令状がとどけられ、働き手であり一家の中心であった多くの男の人が兵隊として戦地に行くことになりました。兵士を送り出す人々は、武運長久（戦場で勝ち続けること）と弾よけを祈って千人針（女の人の手で一玉ずつ縫われたもの）や寄せ書き入りの日章旗（日本の旗）を送り、無事に帰ってくることを願っていました。

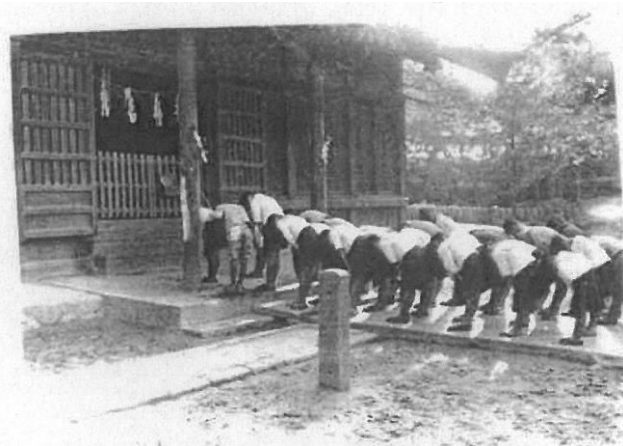
学校も大きな影響を受けることになりました。昭和16（1941）年4月、教育の軍国主義（軍隊の力を強くし、戦争によって物事を解決しようとする考え）を進めるために、これまでの尋常小学校は国民学校とよび名を変えることになりました。



戦争が始まると大人だけでなく、子どもたちの生活にも大きな変化が起こったのです。



寄せ書きされた日本の旗を持って入隊します。戦場では千人針とともにおなかにまいていたそうです。



毎日の勉強は？

- ・朝礼での皇居遥杯（皇居に向かって敬礼する）
- ・音楽では軍歌
- ・図工では、戦争の意識を高めるポスター
- ・男子は「剣道」、女子は「なぎなた」
- ・運動会では模擬戦争 など

当時の少年向きの本

- ・戦地での兵隊さんの働き
- ・守りの様子
- ・戦争意識を高める読み物



くうしゅう 空襲にそなえて

戦争がはげしくなり、空襲（飛行機による空からの攻撃）の危険が高まると、夜、電気を消して過ごしたり、外に明かりをもらさないために電球にしゃ光カバーをつけたり、ばく風によってガラスが飛び散るのを防ぐためにガラスに紙を貼ったりしました。

また、防空壕（空襲のときに身を守るための穴や地下室）を作ったり、消火訓練をはじめとする防空訓練など、空襲に備えての準備が本格化しました。

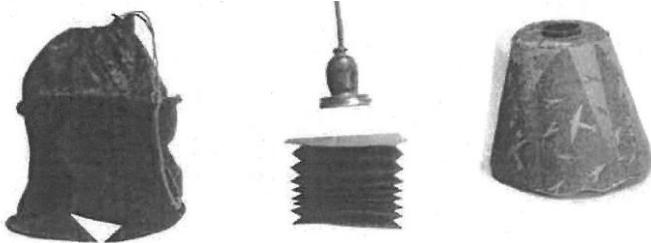


ガラスの強化

後ろのガラスに注目！
紙が貼ってあるよ。

しゃ光カバー

（光を通さないための黒いカバー）



服装はどんなだったのかな？

- ・ 男の人は国民服
- ・ 女の子はモンペ
- ・ 防空ずきん

（空襲の被害に備えて、名前・住所・年齢・血液型が書かれていた。）

防空ずきん



国民服



モンペ



学童服

（国民学校の男子の服）



さらに苦しくなる生活

戦争が長引くにつれて、軍事用の資材が必要になり、さまざまな制度がつけられました。

- 昭和13（1938）年「国家総動員法」・・・金属、繊維、皮革などの生活用品は製造が制限され、さまざまな代用品が作られた。
- 昭和15（1940）年「配給制度」・・・砂糖や米などは、お金があっても割り当てられただけしか買えないようになった。
- 昭和16（1941）年「金属回収令」・・・家庭にある鉄製品（なべなど）や銅製品を強制的に出さなくてはならなかった。
- 昭和17（1942）年「衣料切符制」・・・1人年間100点の切符の中でしか衣料品（服など）が買えなくなった。

昭和17年 配給物資の例

品名	配給	量
米	1人1日	2合3勺（330g）
みそ	1人1ヵ月	200匁（750g）
しょうゆ	1人1ヵ月	4合（720ml）
子ども用おかし	1人1ヵ月	30銭
さとう	1人1ヵ月	0.5斤（300g）

昭和19年ごろになると、配給される量はもっと少なくなりました。とても質素な食生活ですね。

昭和17年 衣料品の点数

品名	点数
背広	50点
ワンピース	15点
国民服	32点
学童服	17点
半袖シャツ	6点
子ども服	12点

100点で買える分量ではとても足りず、穴のあいたくつ下をつくろうのは、子どもをもつ主婦の大切な夜なべ仕事でした。

学童服は、学校へ行くときに着ていきました。

昭和19（1944）年よりあとになると、配給の質も量も低下し、米の配給は一月に10日間分に減らされてしまいました。一升びんの中に玄米を入れて棒でついて精米したり、わずかな米とサツマイモや野菜を煮込んだ雑炊や、小麦粉のだんご入りすいとんを食べて空腹をしのぐしかありませんでした。

昭和20年になると、さらに配給量が減らされたために、人々は農家へ食料を買い出しに出かけ、配給の数倍もする「ヤミ値」で買い求めました。また、高価な着物と米やイモを物々交換することもありました。

子どもたちの遊び

戦時中は生活のすべてが戦争に向けられたため、金属でできたものをはじめとして、子どもたちの遊び道具はどんどんなくなっていきました。終戦後も、生活していくだけで精一杯であったため、子どもたちはなかなかおもちゃを手にすることはできませんでした。

しかし、戦中戦後を通して、そのことで子どもたちが遊びに困ったということはありませんでした。当時は、遊び道具の自作はごく普通のことであり、めんこ、ビー玉、けん玉などへの工夫が自まんの種であったのです。主に外での遊びが中心であり、さまざまな年れいの子どもたちが一緒になって遊んでいたため、道具がなくても、自分たちで遊びを考えて生き生きと毎日を過ごしていたのです。今ではテレビゲームなどが発達し、そのような子どもは、あまり見なくなりました。

負けないぞ！～花茎ずもう～



戦時中の料理

戦時中の食べ物が多くなかったころは、お腹を満たすために、生き抜くために、限られた材料のなかで工夫して、さまざまな料理を作ってきました。今、戦時中の料理を試食し、当時の人々の苦労や工夫を想像してみたり、平和について家庭で話し合ってみたりしてはいかがでしょうか。

【さつまいものくきいため】

材料

さつまいものくき
しょうゆ
サラダ油



作り方

- ①ふきの皮をむくように、さつまいものくき のうす皮をむく(5cmくらいの長さで)
- ②水にひたし、あくぬきをする。
- ③なべに多めの水を入れ、ゆでる。
- ④熱したフライパンに油をしき、いためる。
- ⑤しょうゆで味付けをする。

【おとしだんご(すいとん風)】

材料 (5人分)

かぼちゃ 800g
小麦粉 500g
しょうゆ 大さじ3～4
だし汁 カップ3



作り方

- ①かぼちゃを3cm角に切る。
- ②なべにだし汁をたて、かぼちゃを入れる。
- ③かぼちゃがにえたら、水でねった小麦粉のだんご(ピンポン玉大)を落とす。
- ④しょうゆで味付けをする。

授業ができなかった学校

男の先生が兵隊として戦地に行き、軍隊が学校で生活を始めたため、教室も不足してきました。また、空襲により学校や児童の家も被害を受け、学校は正常な教育をする場所ではなくなっていました。空襲の警戒警報発令のたびに授業を打ち切って急いで下校したため、勉強はほとんどできませんでした。

昭和19年度は、警戒警報発令によって授業の欠けた日は10か月間で116日にもなったんだって！
～羽根井国民学校の学校日誌より～

作業の内容（磯辺国民学校の学校日誌より抜粋）

- 5月30日 城山開墾作業、桑皮むき作業
- 6月6日 今日から4日間奉仕作業
- 6月10日 麦の落ち穂拾い
- 6月19日 今日から窓ガラスの紙貼り作業
- 8月19日 大清水飛行場へ軍役奉仕
- 11月11日 チョマの皮むき作業
- 12月12日 落ち穂拾い

昭和19（1944）年4月から、中等学校の3年生以上（今の中学3年生以上）は、豊川市や豊橋市内の軍需工場（軍隊が必要とするものを作る）で働いたり、農作業を手伝う勤労動員に送られることになりました。同年10月になると、国民学校高等科（今の中学1、2年生）の子どもも勤労動員されることになりました。福岡国民学校では、高等科の男女は豊橋分廠、豊橋精機などへの工場動員に、初等科の高学年（今の小学5、6年生）は農場への桑の皮むきや、

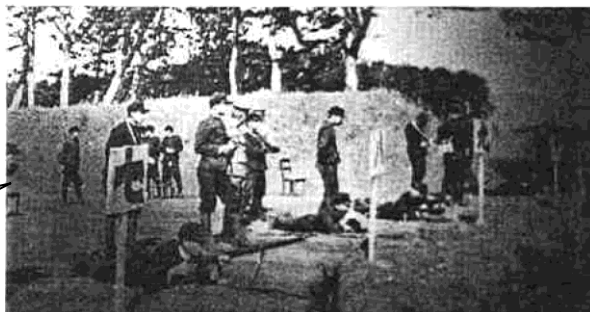
今の小学5年生以上の子たちはみんな戦争に関わるようになったね

落ち穂拾いなどの作業に何度も出かけるようになりました。

このころ、渥美半島に敵が上陸するかもしれないといううわさがたち、大切な家財道具を疎開（おもに田舎などに移ること）させたりする人が出はじめました。また、児童も親戚をたよって疎開するようになりました。

昭和20年4月には、原則として国民学校初等科の児童をのぞき、1年間授業を停止することになりました。こうして学校は完全に教育の機能をなくしてしまいました。

豊橋中学校実弾射撃訓練の様子



これではもう勉強どころじゃないよね

あたら がつこう しゅっぽつ 新しい学校の出発

昭和20（1945）年8月に戦争が終わり、豊橋市内の子どもたちは学校に帰ってきました。でも、授業を受ける教室すらないような状態でした。そのため、毎日毎日焼けただれた校舎の掃除や教室の修理に取り組みました。

やがて、空襲で焼け残った寺や神社、集会所などを借りての分散授業などが始まりました。また、天気の良い日には屋外での青空教室の光景も見られました。

戦争の内容だから、墨で×
がうってあるね

墨塗り教科書

はじめは、教科書として「墨塗り」の教科書が使用されました。これは戦争中の教科書で、内容に問題のあるところに墨をぬって使用したものです。9月には新しい教科書が配られましたが、紙の質が悪く、ざらざらで破れやすいものでした。それでも子どもたちは何とかがんばって勉強を始めていきました。



昭和22（1947）年、教育基本法と学校教育法が定められ、「6・3・3・4」の新しい教育制度がスタートしました。国民学校は小学校とよび名が変わり、今までの高等科は廃止され、中学校が誕生

豊橋市内の新制中学校（昭和22年4月）

中学校名	開校場所	23年度変更校名
中部第一中学校	国民学校高等科	中部中学校
中部第二中学校	女子商業借用	豊城中学校
東部中学校	東田教場他	青陵中学校
北部第一中学校	下地小学校借用	北部中学校
北部第二中学校	牛川教場他	青陵中学校
西部第一中学校	羽根井小学校借用	羽田中学校
西部第二中学校	牟呂小北校舎他	牟呂中学校
西部第三中学校	吉田方小学校他	吉田方中学校
南部第一中学校	福岡教場他	南部中学校
南部第二中学校	植田教場他	南稜中学校

しました。豊橋市にも中学校ができ、昭和23（1948）年

の校名変更を経て、現在に残る学校名が決まってきました。

当時は、物が不足している中で、みんなで工夫をしているいろいろな行事などをやっていたそうです。

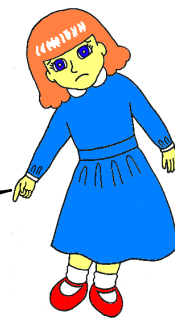
開校当時の学校行事（展覧会）の様子



（中部中50周年誌より）

あたら きょういく はじ
新しい教育の始まりだよ！ここから
らどんどん発展してきたんだね！

とよはし くうしゅう 豊橋の空襲



わたしたちが住むこの豊橋でも、大きな空襲がありました。そして、たくさんの人々の尊い命がうばわれました。

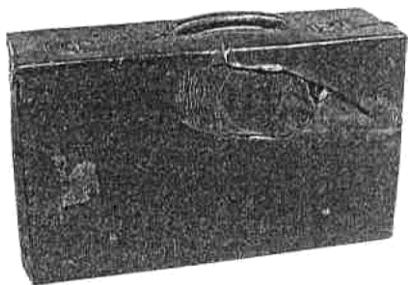
けんかほつ ちゅうしゅうと しゅうしゅう 県下初の中 小都市空襲

昭和20(1945)年6月19日夜半から20日未明にかけて、豊橋をねらってB29(※1)が空襲をしました。名古屋市以外の都市空襲としては、県下で初めてでした。豊橋のような中 小都市をねらった空襲は、戦争がよりはげしくなったことを意味しました。16回にもおよぶ全国の中 小都市への空襲で、57都市が大きな被害を受けました。その中でも、豊橋は6月17日の浜松・四日市に続く第2番目の空襲で、静岡・福岡と同時に攻撃されました。

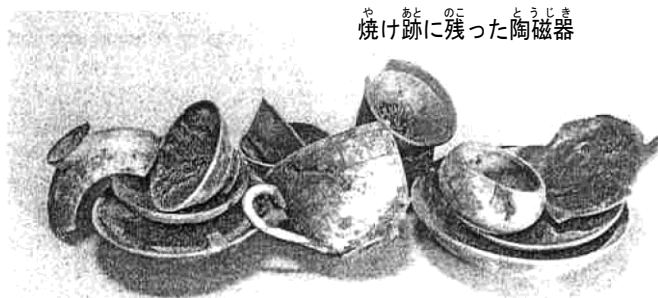
アメリカ軍の資料によれば、6月20日午前1時ごろから136機のB29が高度2700mの低空飛行でやってきました。焼夷弾(※2)1万5000発、946トン(約2時間にわたって投下し続けました。この晩の被害は、死者624人、負傷者344人、焼失家屋1万7000戸(豊橋全体の約70%)、被害者7万人にもおよんだといわれています。(『豊橋市史』)。この攻撃に対し、日本軍も13機が迎え撃ちました。しかし、アメリカ軍に被害はなかったそうです。

※1 B29 … 第二次世界大戦で使用された、アメリカの長距離爆撃機。
最大で9トンの爆弾を積むことができました。

※2 焼夷弾 … 落ちた場所を焼き払う能力をもった爆弾



焼夷弾が直撃した旅行カバン



焼け跡に残った陶磁器

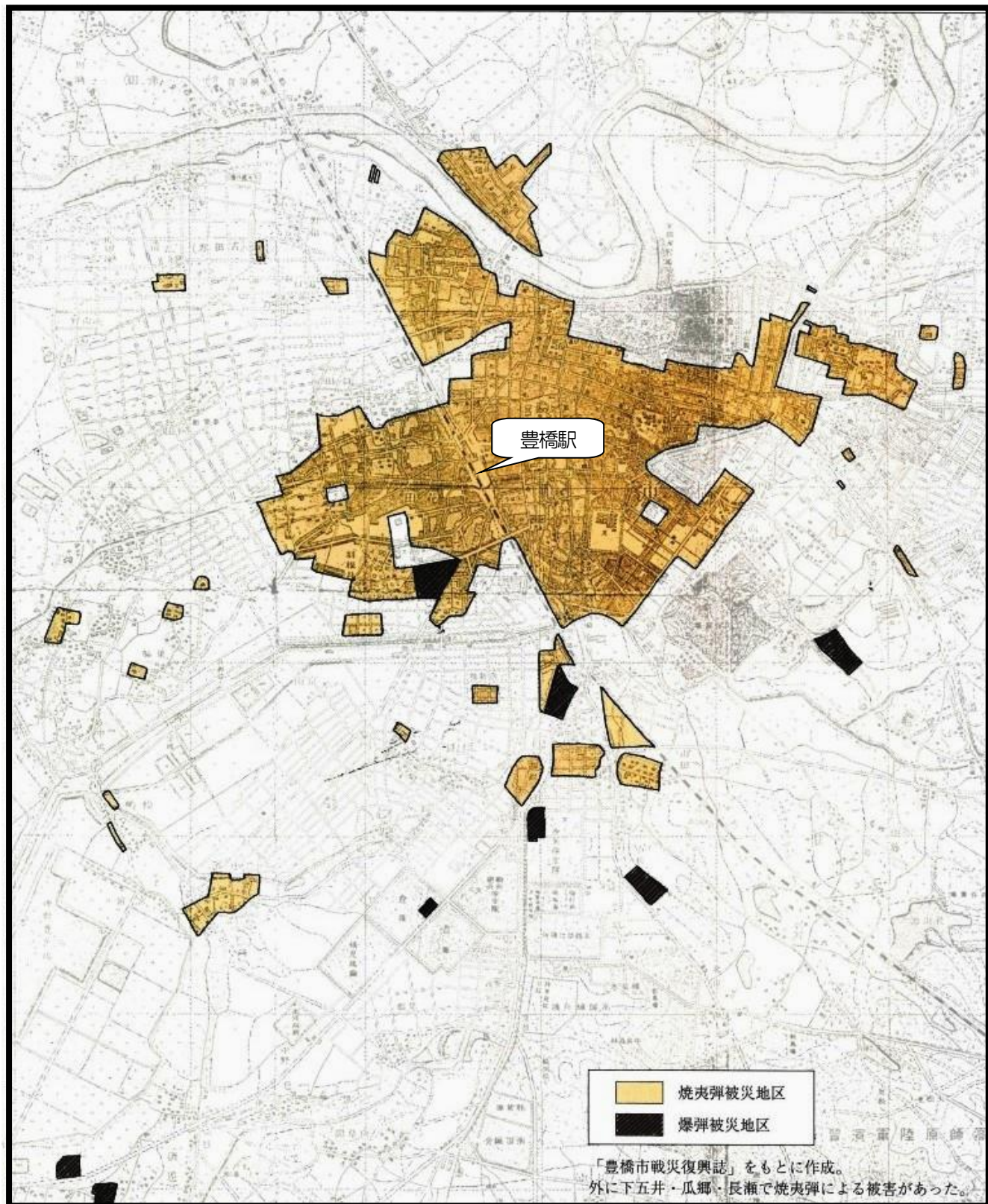


焼夷弾

(『日本空襲の全容』)

ひさいちいき じょうきょう
被災地域と状況

被災地域図



日 時	被災世帯・人口		人的被害			物的被害	
	世帯数	人員	死亡	重傷	軽傷	全焼全壊	半焼半壊
昭和20年6月20日	16,009	68,502	624	229	117	15,886	109

豊橋市役所内の資料による

とよはしくしゅう しょうげん
豊橋空襲の証言から

「まず最初にB29が1機、海岸の方角から進入して、照明弾を投下、全市を真昼のように照らし」
 「無差別に落とす焼夷弾の雨」「市内の火災はものすごく2日も3日も燃えていた」（伊藤久男さん手記）
 「すさまじい火災は無数の焼夷弾に誘導されて小池町付近を経て、次第に市の中心部に向かって蔓延」
 「焼夷弾の雨は止むことなく繰り返され」（広井良一さん手記）

※参考図書：『豊橋空襲体験記』1～4集 豊橋空襲を語りつぐ会

『豊橋市史第4巻』1987 豊橋市

空襲後の札栄町付近

ガレキの中をおおきな荷物をか
 ついで行く人、遠くに見えるの
 は「額ビル」（現カリオンビル）



空襲後の札栄町付近

残っている建物は電話局（現NTT）

空襲後の東田町付近

当時市電の通っていた東雲通り。止まったままの市電が見える。



くうしゅうひがい 空襲被害

豊橋では、6月20日以前にも、何度も空襲で被害を受けていました。2月15日に4機のB29が250kg爆弾を投下し、死者10人。4月15日に1機のB29が250kg爆弾を投下し、死者8人。4月30日に5機のB29が250kg爆弾を投下し、死者30人。5月19日に1機のB29が250kg爆弾を投下し、死者5人。計53人以上の犠牲者が出ました。いずれも他地域の第一目標を見失った「はぐれ爆弾」の被害でした。また、他に小型機の銃撃による学徒の犠牲者もあったようです。したがって、豊橋市の空襲犠牲者数は少なくとも677人以上ということになります。

豊橋湊町公園には『豊橋空襲犠牲者追悼碑』があり、ここで毎年慰霊祭や灯籠流しが行われます。

(『戦時下愛知の諸記録』、『豊橋空襲体験記』)

豊橋市における空襲・警戒警報発令回数と空襲

(昭和20年6月20日まで)

年 月	警 報			空 襲		
	日数	警戒	空襲	日	場 所	被 害
昭和17年4月	4	1	3			
昭和19年11月	4	2	3			
昭和19年12月	15	12	13			
昭和20年1月	23	36	6	9日	東田町西脇 牛川町南台	33世帯被災
昭和20年2月	20	31	8	15日	向山町伝馬 三ノ輪町	死者10人・115世帯被災
				16日	大崎飛行場 老津飛行場 高豊・前芝・杉山 各村・大清水町	高豊村で1世帯被災・農業会出荷場全焼(艦載機による)
昭和20年3月	24	34	7	4日	多米町・石巻村	多米山林20坪焼失
				25日	向山町池下 牛川町野川	29世帯被災・動物園被弾
昭和20年4月	20	26	4 ※1	15日	小池町・柳生町	死者8人・45世帯被災・機関車脱線
				30日	高師兵営・山田・ 小松・南神明・南 栄・小浜各町	死者8人・43世帯被災・車関係者に死者あり
昭和20年5月	25	41	4	19日	花田町中郷 小池町	死者5人・108世帯被災
昭和20年6月	16	21	6	20日	市内全域	全戸数の70%焼失・死者624人

注) 警戒に関しては、『豊橋地方空襲日誌』『小浜町内会日誌』より作成。警戒警報発令後、空襲警報に変わったものは、警戒警報の回数に入れていない。

※1 警戒・空襲不明の警戒一回あり。

子どもための平和展 関連年表




	社 会	「青い目の人形」関係
1910 (明治43)	この時期アメリカへの移民増大 カリフォルニア州に4万人移住 日本国内では韓国併合調印	◆は本文のタイトルを示す
1913 (大正2)	カリフォルニア議会で 「外国人土地所有禁止法」可決 珍田駐米大使が法案に抗議	
1924 (大正13)	アメリカ議会で、排日条項含む「新移民法」可決 東京の15新聞社が排日法に反対し、共同宣言発表	
1926 (大正15)	12月25日 大正天皇没する 昭和と改元する 【おしよせる不景気】	ニューヨークの世界児童親善会でギュリック博士らを中心に「友情の人形」計画を発表し、推進する ◆ 友情の人形計画
1927 (昭和2)	2月 大正天皇大葬 【金融恐慌はじまる】 中国各地で日本製品排斥運動	2月「友情の人形」(青い目の人形)到着。各地で歓迎会が開かれる ◆ 歓迎される「青い目の人形」 ※人形受領校の少女たちを中心に一銭募金が行われる 11月「答礼人形」がアメリカに送られる ◆ 「答礼人形」アメリカへ
1929 (昭和4)	世界恐慌がおこる 【不景気の深まりと財閥の支配】	
1931 (昭和6)	9月 満州事変おこる 関東軍が満鉄線を爆破し軍事行動を開始	11月 日本で「友情の人形」計画に尽力した渋沢栄一(92歳)没す
1932 (昭和7)	5・15事件がおこる 犬養毅首相が暗殺され、軍部の発言力が強まる 【軍国主義化がすすむ】	
1933 (昭和8)	日本の軍事行動が国際的な非難をうけ、日本は国際連盟を脱退 【言論・思想統制の強化】	
1936 (昭和11)	2・26事件がおこる 軍部独裁をめざし、陸軍青年将校が政治の中枢部を占拠	
1937 (昭和12)	7月 日中両軍が盧溝橋で衝突、 日中戦争開始 12月 日本軍が南京占領、大虐殺おこる	
1939 (昭和14)	ドイツ軍のポーランド侵攻 イギリス・フランスがドイツに宣戦布告 第二次世界大戦のはじまり	
1941 (昭和16)	日本、イギリス・アメリカに宣戦布告、ハワイの真珠湾を奇襲攻撃 太平洋戦争開始 国民学校発足 豊橋中学校で学校報国団の結成 「国民勤労報告協力令」公布	【軍国歌謡が盛んになる】 童謡「赤い靴」「青い目の人形」などが、時局思想に反すると非難される ◆ しのびよる軍国主義のために ◆ さらに苦しくなる生活
1942 (昭和17)	アメリカ政府「戦時転任局」を設置、日系人12万人を強制収容 日本海軍、ミッドウエー海戦で大敗 ガダルカナル島退却決定 戦意高揚相撲大会が国民学校で開かれる	
1943 (昭和18)	アメリカ軍の反撃、各所で進行 英米音楽・ジャズなど演奏禁止 雑誌名や日常語化している英語(野球用語も)追放 女子勤労挺身隊結成 学徒勤労動員 豊橋市内国民学校で防空訓練	新聞で「青い目の人形」を敵性人形と指摘、処分の記事が載る ◆ たたきこわせ「青い目の人形」

	社 会	「青い目の人形」関係
1944 (昭和19)	高等科の男女は工場動員、初等科は農場などへ作業に 11月ごろより豊橋地方に空襲警報発令され、日を追ってその回数が増加 沖縄大空襲（那覇市も大被害）	人形焼却命令があったが、西郷小学校では稲垣先生が「コネタ」を隠す ◆授業ができなかった学校 ◆子どもたちの遊び ◆戦時中の料理
1945 (昭和20)	3月10日 東京大空襲 4月 1日 米軍が沖縄本島中西部に上陸 6月19日・20日 豊橋空襲 6月22日 沖縄での組織的戦闘が終結 8月 6日 広島に原子爆弾投下 8月 7日 豊川海軍工廠被爆 8月 8日 ソビエト連邦、対日戦通告 8月 9日 長崎に原子爆弾投下 8月15日 天皇、敗戦の詔勅を放送 日中・太平洋戦争が終わる	◆豊橋の空襲 ◆新しい学校の出発 12月 ギューリック博士（85歳）没す
1972 (昭和47)	5月15日 沖縄が日本に復帰	
1973 (昭和48)	ベトナム平和協定成立 米ソ首脳会談行われる 第4次中東戦争、オイルショック	NHK「人形使節メリー」放送 各地から人形健在の報が寄せられ話題になる
1977 (昭和52)	8月 14年ぶりの原水爆禁止統一世界大会開催 国内人口、戦後生まれが過半数となる	「青い目の人形 50周年記念展示会」開催 29体の人形が公開される
1978 (昭和53)	日中平和友好条約調印 国際児童年	人形里帰り訪問団が、8体の人形とともにアメリカを親善訪問 「世界平和の人形使節展」開催
1983 (昭和58)	中曽根・レーガン会談で同盟関係再確認 大韓航空機撃墜事件	「青い目をしたお人形は」TBS系でドラマ化 「青い目の人形展」109体の人形を展示公開
1984 (昭和59)	ロサンゼルスオリンピック開催	「友情の人形」（青い目の人形）の事実が教材化され、研究調査が始まる 「北米親善人形使節団」（横浜市）が姉妹都市訪問
1995 (平成7)	阪神淡路大震災 終戦50年	2月 西郷小へ新・青い目の人形「クリスティーナ」がくる（シドニー・ギューリック3世）
1996 (平成8)	包括的核実験禁止条約	1月 西郷小「コネタ」、約70年ぶりに里帰り 西郷小、ノースリッジ小（オハイオ州）と姉妹校になり、「エレアーノ」と「ミス西郷」とを交換 7月 ノースリッジ小訪問団が西郷小を訪問 ◆コネタの里帰り
2001 (平成13)	アメリカで同時多発テロ	
2003 (平成15)	イラク戦争	
2005 (平成17)	戦後60周年 各地で平和の誓いを新たに	
2006 (平成18)		12月 豊橋市が「平和・交流・共生の都市」を宣言
2012 (平成24)		「青い目の人形 愛知サミット in 豊橋」開催 愛知県下の人形全9体を子どものための平和展で展示

愛知県にある友情人形「青い目の人形」

設楽町立田峯小学校	グレース・A・グリーン
 <p>昭和45年に再発見されてから、本校の宝と考え、大切に保存してきました。その後の追跡調査の結果、本校に残されている「青い目の人形」は、昭和2年12月20日、アメリカ合衆国オハイオ州デイトン市のノーマル・トレーニング・スクールから贈られてきたもので、グレース・A・グリーンという名前であることが判明しました。</p> <p>昭和63年、彼女の60歳の誕生日をお祝いし、田峯の村を挙げてグレースちゃんの「還暦祝い」が行われました。そして、これを機会に彼女の出身地オハイオ州デイトン市に働きかけ、「青い目の人形」を通した草の根の国際交流が始まりました。</p> <p>国際交流は、3年に一度4年生以上の子ども・保護者・地域の方・職員が、グレースを連れて、アメリカを訪問しています。現地の学校との学校交流や歌舞伎上演・ホームステイをして交流を深めています。平成24年1月には8回目の訪問を無事終えることができました。また、過去には、アメリカの小学校の子どもたちが田峯小学校を訪問してくれたこともありました。</p>	
新城市立東陽小学校	ノルマン
 <p>本校の青い目の人形は「ノルマン」君と言い、愛知県に残っている9体のうちの1体です。ノルマン君は男の子の人形で、全国でも3体しか残っていないといわれている大変珍しい人形です。出生地や人形の製作者など詳しいことは分かっていませんが、ノルマン君が入っていた木箱には次のような記録が残っています。</p> <p>「昭和2年七月、日米親善の意味でアメリカから日本に使節人形がおくられた。この人形は旧八名郡下三校の内に選ばれて、当時の能登瀬小学校に迎えられた「ノルマンくん」である。ノルマンくん歓迎会は全校あげて盛大におこなわれた。」</p> <p>当時の資料によると、ノルマン君が旧能登瀬小学校(昭和51年の学校統廃合により現在は東陽小学校)に来た時、他地区に来た青い目の人形と同様、熱烈な歓迎を受けたようです。子どもたちが家にある日本人形を持ち寄り、ノルマン君を囲んで盛大に雛まつりをしている様子が写真に残っています。アメリカから来たノルマン君が当時の日本の子どもたちに歓迎され、大切にされた様子が伺えます。この写真に写っている5年生の女の子は現在96歳になる学区の方ですが、ノルマン君が来たときのことを今でもとてもよく覚えていらっしゃいます。</p> <p>洋服などが新調された人形が多い中、ノルマン君は現在まで当時のままの洋服を身にまとっています。そういった人形は現在大変少ないようです。その意味でも貴重です。</p> <p>ノルマン君は、平成24年の2月にアメリカへ里帰りし、6月に無事帰ってきました。その際、ロアナータ市のボランティアの方に帽子とケープを新調していただきました。</p> <p>東陽小の子どもたちはノルマン君の帰りを待っていました。ノルマン君は東陽小の宝です。これからも全校児童で大切にしていきたいと思っています。</p>	

豊川市立御津南部小学校	ヘレン
	<p> ギューリック博士の孫のギューリックⅢ世さんは、祖父の意思を引き継ぎ、昭和61年から当時の人形が残されている小学校などへ、新しい青い目の人形を贈る交流を続けています。市内では、御津南部小学校と桜町小学校に新しい青い目の人形が贈られました。 </p> <p> 青い目の人形が残っている御津南部小学校では、平成20年から21年にかけて、6年生が人形について調べました。そして、人形がどうして学校に贈られたのか、なぜ残されたのかを考え、青い目の人形のことを劇にして全校児童に見せました。そのような中で、平成21年3月に新しい友情の証として人形「リーサ」が贈られました。 </p> <p> これらの取り組みは、平和の尊さや互いを理解することの大切さを、今も児童たちの心に残しています。 (広報とよかわ2010.11.1号より) </p>
田原市立田原中部小学校	マーシャル・セントラル
	<p> 田原中部小学校には、アメリカ合衆国から贈られた青い目の人形が残っています。6年生の社会科授業で、戦争の悲惨さや人間の弱さと良心を考えるために取り上げ、「戦時中の子どもは、青い目の人形を、どのように思っていたのだろうか」という子どもたちの問いかけから学習が始まりました。資料や戦争経験者からの聞き取りで、当時の田原の人々と戦争との関わりや思いを理解することができたようです。 </p> <p> 学習を通して子どもたちからは、「青い目の人形は、学校の宝だ」という感想が聞かれました。今後も、青い目の人形を生かした学習を続け、愛校心や平和を願う心を育てていきたいと考えています。 (広報たはら 平成22年5月15日号) </p>
幸田町立幸田小学校	グレース・エッサ
	<p> 幸田小学校に残るグレース・エッサは、1972年に講堂を取り壊した際に発見されました。壊される運命であった人形をかわいそうに思い、だれかが講堂の中の御真影安置所(ごしんえいあんちじょ)の奥の方に隠したと思われます。 </p> <p> 2012年、里帰りとしてアメリカ合衆国バージニア州のロアノーク市美術館に貸し出されました。 </p>
岡崎市立宮崎小学校	コルマ・デル
	<p> 「コルマ・デル」は、校長室に保管されています。 </p> <p> 昭和33年、偶然倉庫から発見されました。見つけた教員は、本校の卒業生であり、本校が人形を盛大に迎えたときの1年生でした。ぼろぼろの人形を手入れし、服を着せて教室に飾っていましたが、昭和48年、創立百周年を記念し、校長室に飾るようになりました。 (岡崎の教育 平成21年8月号より) </p>

西尾市立吉良中学校	アテナ
	<p>昭和初期、横須賀尋常高等小学校に贈られた人形は、ほどなく併設する公民学校に移されました。そこで、軍事教練の男性教官が出入りしない裁縫室へ置かれたことが幸いし、生きのびることができました。</p> <p>その後、町村合併で吉良中学校となり、昭和43年新校舎へ移転するときに、危うく捨てられそうになりました。そこを救った教員が卓球部の顧問をしていたので、人形は卓球部の部室に置かれることになりました。そして、勝利をもたらす護り神として「アテナ」とよばれるようになりました。部員たちは、新しく服を作るなど、アテナをととても大切にしました。</p> <p>アテナが青い目の人形だと確認されたのは、平成2年のことでした。数奇な運命をたどったアテナは、現在は校長室に飾られ、学校のマスコットとしてかわいがられています。</p>
豊橋市立西郷小学校	コネタ
	<p>コネタは寄贈時に米国で付けられた名前ですが、この人形の生誕地とされる米国オハイオ州ワパコネタに由来しています。1941年からの日米の戦争の際に、かつて寄贈されたこれらの人形たちは敵国の象徴として竹槍で突かれたり、焼き捨てられたりしてその多くが失われました。しかし、西郷小学校ではある教師が引き取って庇い、彼が召集されて戦地に赴く際にも事前に西郷小学校の押入に密かに隠して置きました。こうして、コネタは難を逃れ、終戦後42年にあたる1987年に、その押入から発見され今に伝えられています。1996年1月には、コネタの故郷である米国ワパコネタに一時帰国が実現され、これをきっかけに地元オハイオ州ノースリッジ小学校との国際交流が結ばれています。2008年11月に、レプリカ2体が製作され、その一つがノースリッジ小学校に寄贈されました。もう一つは西郷小学校でこのできごとを子どもたちが学ぶための教材に使用されています。</p>
豊橋市立細谷小学校	エセル・ディーン
	<p>細谷小学校に、「エセル・ディーン」ちゃんがやってきました。昭和2年9月、二川駅から校長先生が人力車でお迎えして以来、大切に保管されています。</p> <p>ところが、昭和16年から日本とアメリカの間で、戦争が始まりました。親善のシンボルだった「青い目の人形」は、敵の国の人形とみなされ、竹槍で突かれたり、火の中に投げ込まれたりして、ほとんどの人形が処分されてしまいました。エセル・ディーンは木箱に入れられ、物置に隠されていたため、戦争を乗り越え、現在も残っています。</p> <p>エセル・ディーンは、頭髪部分がやや失われたものの保存状況は良好です。パスポート、切符、身分証明書、人形を作ってくれた方の直筆の手紙、人形を迎えて歌った歌の歌詞や楽譜など、当時の資料がすべてそろっています。</p> <p>「エセル・ディーン」は校長室から、私たち細谷小学校をいつも見守ってくれています。</p>

平和・交流・共生の都市宣言

私たちのまち豊橋市は、市民自治の精神に立ち、人や地域、世界の国々とのつながりを大切に、“すべての人とともに生きる”、気概と誇りをもったまちづくりを進めています。

市制100周年を機に、私たちは、先人の英知と情熱の歴史を受け継ぎ、核の脅威のない真の恒久平和と世界の持続的な発展に貢献するため、広い分野にわたる交流と国際協力の取組みに努めます。

また、多様な文化や生活・習慣への理解を深め、自らの役割と責任を自覚するなかで、互いに信頼し尊重しあう心を持ち、人が輝き安心して生活できる地域づくりに取り組めます。

心豊かで笑顔あふれる豊橋を次の世代に引き継ぐため、私たち豊橋市民は、一人ひとりが、未来への夢と高い志を持ち、“世界に開かれ、世界に友人をもつ豊橋”、“平和を希求する豊橋”をめざすことを決意し、ここに「平和・交流・共生の都市」を宣言します。

平成18年12月18日

愛知県豊橋市

平成29年7月 作成

〈平和教育研究委員会〉

委員長	田澤 順子	旭小学校
副委員長	堀井 章行	章南中学校
事務局	山田 篤志	松山小学校
会計	岡本 知子	岩田小学校
委員	福井 浩二	細谷小学校
	田中 文子	西郷小学校
	川上 智広	岩西小学校
	荒川 武士	豊岡中学校
	藤原 喜郎	中央図書館
	羽生あゆみ	学校教育課